

日 時：平成 29 年 5 月 18 日（木）18 時 30 分～20 時 10 分

場 所：平賀農村婦人の家

対象地区：館山・松崎・松館

参加人数：13 名

■意見交換

内 容
<p>○平賀農村婦人の家の改築について</p> <p>（市民から）</p> <p>平賀農村婦人の家の改築工程を教えてください。また、町会の負担金について、当初の完成予定の平成 31 年度に納付できるよう毎戸から 3 年をかけて徴収する予定であったが、完成が平成 30 年度に早まったため、それに伴う納付の延長は可能だろうか。</p> <p>（市から）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・平成 29 年度内に境界確定、土地の売買完了、設計が決まり、平成 30 年度に建築する予定である。</li><li>・原則、負担金は完成時に納付いただくことになるが、事情がある場合、納付の延長も可能である。</li><li>・集会所の建替えは、平成 32 年度が発行期限の合併特例債を利用し行うという計画であったが、合併特例債は庁舎、文化センター等の大型改修に充て、集会所の建替えは同じく平成 32 年度までの国の緊急防災対策事業に振り替えた。平成 32 年度以降は、市がすべて費用を負担することになるため、耐震化基準を満たしていない集会所の改築を早めた経緯がある。</li></ul> <p>（市民から）</p> <p>設計の前段階において町会との打合せは行われるのだろうか。</p> <p>（市から）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・役員及び町会の皆さんを対象に行われる。</li></ul>
<p>○資源物分別指導員のジャンパー支給について</p> <p>（市民から）</p> <p>市で貸与している夏用のジャンパーが、旧平賀町時代から使用しているもので、あまりに汚くてほとんど着ている人がいないと聞く。そのため、貸与ではなく支給してもらうことはできないか。また、併せて冬用のジャンパーについても支給してもらえないか。</p> <p>（市から）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・市民生活部に持ち帰って検討する。</li></ul>

<p>・保健協力員のジャンパーも貸与である。協力員が頻繁に変わるため支給すると経費がかなりかかるという事情がある。冬は寒さで大変だと思うので、冬用のジャンパーについても検討する。</p>
<p>○平賀農村婦人の家の名称について (市民から)</p> <p>平賀農村婦人の家という名称については、約 40 年前に農林水産省の補助事業で建てた際、農村地域の女性の地位向上という意味があつて付けられたと思うが、今の時代に合わないため名称を変更することはできないか。</p> <p>(市から)</p> <p>・変更することはできる。「農村婦人の家、農村環境構造改善センター」などは当時の国の補助事業に付いてきた名称であるが、今はそれらと切り離して事業を行っている。地域の皆さんで検討してみるとよい。</p>
<p>○市内診療所の利用者数について (市民から)</p> <p>平川、碓ヶ関、葛川診療所の 1 日の平均利用者数を教えてほしい。</p> <p>(市から)</p> <p>・平川 46 人、碓ヶ関 36.7 人、葛川 11.1 人である (平成 27 年度実績)</p>
<p>○旧松崎小学校敷地内の管理について (市民から)</p> <p>同敷地内の桜の木は手入れがされていないし、公園の草も伸び放題である。管理はどこで行っているのか。</p> <p>(市民から)</p> <p>・公園は町会の管理である。</p> <p>(市から)</p> <p>・一般企業に市で土地を貸しているが、桜の木の管理については市または当該企業のどちらでやっているか分からないため管財課に確認をする。</p>
<p>○消防団員の確保について (市民から)</p> <p>消防団員が減少してきているため、市で何か対策を講じてもらえないだろうか。例えば、市のイベントに消防団を活用したり、広報ひらかわに活動内容や入団者の紹介を載</p>

せたりできないものか。弘前市ではイベント会場にはしご車を用意し、子ども達を乗せたりさせている。平川市は弘前市と同じ消防事務組合になったことであるし、はしご車を手配することはできるのではないか。イベントをもっと活用することができれば若い人が消防団に興味を持つと思う。

(市から)

- ・消防団員の減少は大きな課題である。平川市のイベントなどではしご車を活用できるのかは弘前消防事務組合に確認する必要がある。

(市民から)

平川消防署長に確認したところ、日程が合えば、消防隊員が来てはしご車を子ども達に見せることは可能だということだ。どういう場所でやるかというところが問題だが、イベントの時、消防団を絡めて子ども達に見せればかっこよく見えるのではないだろうか。

広報の件も、欄は大きくなって良いので載せることを検討してほしい。出来るのであれば毎月がよい。

(市から)

- ・広報については、今年度シティプロモーションの一環で、広報の出し方や作り方を検討していくことになっているので、要望があったことを踏まえながらどういうことができるのか検討していきたい。
- ・イベントに関しては、はしご車をどういうイベントで活用できるのか検討していきたい。

○河川敷（大坊・松崎河川広場）の整備について

(市民から)

河川敷のゲートボールのところに汚泥がたまって整備がされていない。今後、整備の予定はあるのか。また、民間のグラウンドの方をグラウンド・ゴルフが出来るようにするとか、活用を検討するべきである。

(市から)

- ・河川敷は県の管轄で管理は市でやっている。水害のあと全て復旧するのは無理であるとなった。弘前市方面に向かって道路左側（バスケットボール、テニスコート、ゲートボール）は全面的に復旧させる予定だが、道路右側（陸上競技場、野球場）は前と同じような形には復旧できないため、フットサルのコートを作った。そして、空いた場所を市の雪捨て場として活用させてもらっている。
- ・県予算の中で、毎年少しずつ整備されてきている。

○平川市新体育館の建設について

(市民から)

平川市新体育館の整備はいつ頃になるのか。

(市から)

- ・現段階において実施設計まではできている。当初は、平成 32 年度が期限の合併特例債で整備しようとしていたが、建築単価の上昇により、それまでに新体育館の整備を行おうとすると合併特例債の限度額を超えてしまう見込となったため、庁舎建設にいくらかかり、基金がどれくらい残るのかを見極めたうえで着工に取り掛かることとなった。基金については、何かあったときに備えて残しておくべきものだが、職員の削減などにより合併時に比べると増えてきているので活用したい。また、国の方で基金を多く持っている自治体については交付税を減らすという話もあるので、そうなる前に将来に向けた施設整備を行いたい。国の補助事業もあるようなのでそれらも活用しながら新体育館の建設に向かっていきたい。

○ひらかドームのトレーニングルームについて

(市民から)

ひらかドームのトレーニングルームにはインストラクターがいない。インストラクターを配置し事故があった場合の備えをした方が良いのではないか。保健体育課の職員に資格を取らせて、健康サポートなども併せてできれば良い。

(市から)

- ・陸上競技場・多目的広場が完成したので、スポーツ振興と健康づくりを一体的な形で進めていきたいと思っている。インストラクターについては、体育協会との関係も考えながら、市民の健康とスポーツ振興のために有効かどうかという部分において検討されると思う。
- ・いずれ、ひらかドームは体育協会の指定管理になると思う。その中であって、市全体の体育力向上につなげるためにどうしたら良いのかということ併せて考えていく。陸上競技場・多目的広場の今年 1 年間の維持管理費がどれくらいかかるのかというところをみながら、来年度以降の指定管理に向けて動いていきたい。

○除雪ルートについて

(市民から)

決まって同じ時間に除雪が来る。来るのが遅ければ遅い方が良い。1 年ごとにまわる順番を変えるなど各町会で不公平にならないようにしてもらえないか。

(市から)

- ・土木課で業者の組合せなどを考慮し路線を決めて、距離的にも差がないようにやって

いる。ルートについては、土木課でどういうローテーションを組んでやることができるのか検討してみる。

○名産品の開発について

(市民から)

平川市は県内で住みよい街ナンバーワンであるが、平川市といえばこれだというのがりんごや温泉しかない。食ラボをベースに名産品の開発をしたり、さらには、レシピコンテストを開くなど多くの人に来てもらえるようなイベントを企画してもらいたい。

(市から)

・名産品の開発は、今までも研究・検討してきたところだが、実現は難しい状況である。中学・高校の生徒や市の若手職員などと意見交換を行っているが、なかなかこれといったものが出てきていない。5月より地域おこし協力隊が入り、既に柏木農業高校とタイアップし何か作ることにはできないかと活動しているところなので注目したい。これまでと別な視点から考えてみるなど、時間がかかっても取り組まなければいけないことだと考えている。

○農業政策・振興について

(市民から)

農家が潤わないとまちづくりもうまくいかないと考える。市として水稻に関して今後どのような政策を進めていくのか。

農地集積の推進を一層図ってほしい。私個人としては農業委員会を通して交換分合は行ってきたが、何かメリットがあればより交換分合も進んでいくと思う。

(市から)

・平川市は一次産業に従事している方が多く、農業のまちである。県が公表している平成28年販売額ではりんごが約95億円なのに対して、米は約17億円と厳しい状況にある。青天の霹靂のブランド化により米1俵あたりの単価は増えてきてはいるが、米の消費量に対して販売量が多いという問題を解決できなければこの状況は打破できない。よって、①地域の特性を活かしたブランド米を作っていく方法②農地集積によりコスト削減を図っていく方法③野菜との複合経営を進めていく方法などにより、今までと変えていかないといけない。しかし、それに対して市でどのような補助ができるのかとなると、なかなか効果的な補助が出来なく難しい状況にあるということは理解してもらいたい。

(市民から)

生産する作物を野菜などに切り替えていくとなると簡単なものではない。一方で、田は貯水池の役割を果たしており、集中豪雨などの際に役立っている。そういう考え方を

持ってもらいたい。減反や野菜を作るとかではなく、こういった田の機能をうまく利用できないか。

(市から)

- ・確かに農地の持つ多面的機能の中には貯水機能がある。しかし、今の状況の中で水稲栽培を進めていくとなっても、市としてどういった支援ができるのかとなると難しい状況にある。

(市民から)

貯水機能については無視しないでほしい。田を作っているおかげで豪雨などがあった際も住宅まで水がこないということをもっと住民の方に知ってもらいたい。また、昔のように国で用水路や排水路を拡大してくれることもなくなった。田は多面的機能を果たしているということを住民に周知するとともに、「田を作っている人には頑張ってほしい」ということが何らかの形として現れれば良い。

(市から)

- ・多面的機能支払交付金の制度を上手く活用してもらいたい。
- ・平川市では農地集積が遅れている。理由は、相対で貸しているため。農業委員会などを通してまとまった土地の集積が図れば良いのだが。そういったこともあって、解決策がなかなか出せない状況である。

○学校の統廃合について

(市民から)

先日、県立高校の統廃合についてのニュースがあったが、学校の統廃合については少子化が大きな原因であると考えている。市では、学校の統廃合に関する長期的な構想を考えているのか。

(市から)

- ・現在のところ考えていない。しかし、地域の事情によってはこれから議論になっていくと思う。碓ヶ関地域は子どもが少なくなってきたが、学校の老朽化により建替えを予定している。地域から学校をなくすことは難しい。また、複式学級が多くなると色々な支障があると考えられる親が増えていて、広船小学校が平賀東小学校に統合したという経緯もある。統廃合は行政で子どもの人数だけで判断するといろんな反発が出てくるが、教育効果を含め、対人間的な人づくりのようなことを考えた中であつても、小さい学校のままでいいのかという議論は出てくる。その際は、地域住民、PTAの皆さんを含めての話し合いになっていく。

○都市計画の見直しについて

(市民から)

光城のような大規模な開発でなくても、市が不動産取得を誘導し、若い人たちの居住区域となるよう都市計画の見直しなどを考えてもらえないものか。

(市から)

- ・都市計画の見直しに関しては難しい。市街化区域を増やすには人口の増える予測がなければいけないという国の基本的な考え方がある。そこで、市で実施しているのが市街化調整区域での緩和区域の設定である。本来、田を開発できるのは農家住宅などでなければできないが、去年緩和区域を見直し、周りに家がある場合、農地を家に転用できるよう指定をした。去年は新たに 29.6 町歩を指定し、計 511.5ha が指定地域となっている。また、子育て世帯や転入者が家を建てたり購入する場合に補助金を出すなど、家を建てやすい環境を整えている。

○新庁舎建設の進捗状況について

(市民から)

新庁舎建設は今の辺まで進んでいるのか。

(市から)

- ・基本設計及び実施設計を行うためのプロポーザル（公募による提案）について公表したところである。大学教授などで組織する選定委員会で提案内容を審査し、5 業者くらいに絞ったうえで、最終的な業者を決定する。平成 29 年度に基本設計、平成 30 年度に実施設計、平成 31、32 年度で建てるのが出来ればということで進めている。

(市民から)

住民の意見を反映させられる機会はあるのか。

(市から)

- ・基本設計の時はパブリックコメントを行い、皆さんの意見を募集することとなる。